

日本の美しい 自然を次世代に 引き継ぐために

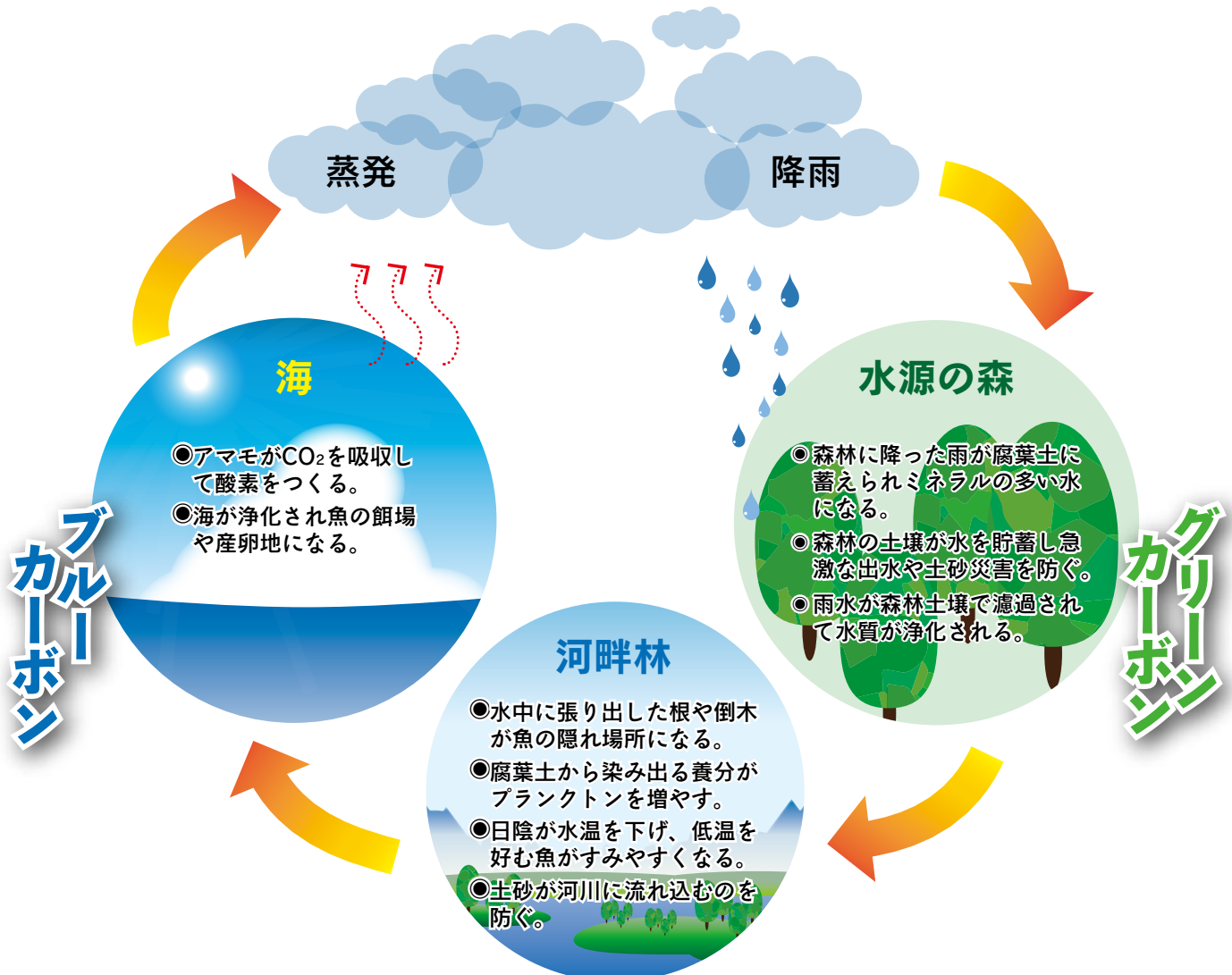


広島「セブンの森」づくり

日本の四季折々の美しい自然や貴重な生態系を次世代に受け継いでいくために、さまざまな団体と協力して保護・保全活動を推進するとともに、自然学校を運営しています。

森林の保護・保全活動「山の森づくり。海の森づくり。」

「山の森」と「海の森」の二つの視点から「CO₂削減」と「豊かな自然環境の再生」を進めています。



森の保育活動で健全な「セブンの森」づくり

日本は木を植えて木を育て、木を切って使い、また植えるという木を循環させる文化を持っています。木が育つには何十年もかかり、その間の植樹や下刈り、間伐などの保育を人が計画的に行って森を守ってきました。

セブン-イレブン記念財団の「森づくり」の基本的な考え方は、植樹から下刈り・間伐までの森の保育活動を行い、健全な森をつくることです。

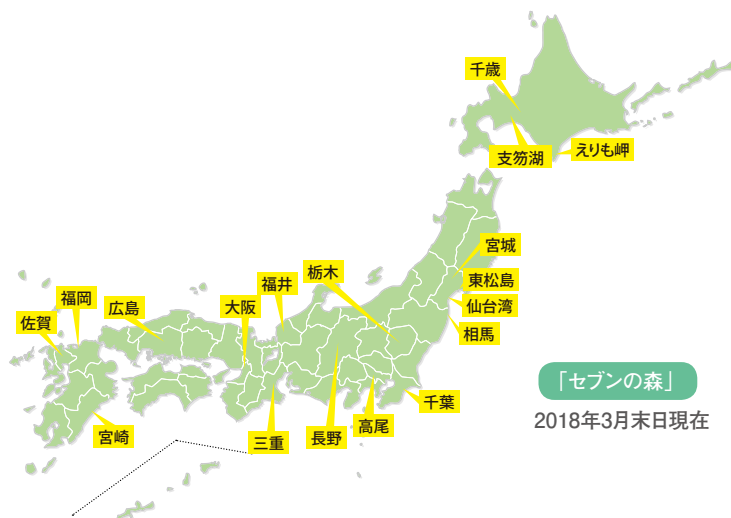
2006年に「支笏湖セブンの森」をスタートさせて以来、全国で「セブンの森」づくりに取り組んでいます。2014年からは、「セブンの森」の間伐材を利用した木製募金箱を店頭を設置し、木材を循環させていくことで森林保全と地球温暖化防止につなげています。



募金箱は宮城県大崎市の障害者就労支援事業所で組み立てています



「宮城セブンの森」竹林整備



「セブンの森」
2018年3月末日現在

アマモを増やして海を再生

「海の森づくり」として、水質浄化やCO₂を吸収するアマモを増やして豊かな海に再生する活動に取り組んでいます。「ブルーカーボン」は、地球上の生物が固定化する全炭素量の55%を占めており、温室効果ガス削減の切り札とも言われています。

セブン-イレブン記念財団は、2011年からセブン-イレブン加盟店や本部社員のボランティアを募り、アマモを増やして、東京湾を豊かな海に再生する活

動「東京湾再生UMIプロジェクト(東京湾・海をみんなで愛するプロジェクト)」に取り組んでいます。

また、21世紀に向け東京湾を「江戸前」という言葉に象徴される豊かな海を次世代に引き継いでいくために、官民が一体となって東京湾の再生に取り組む初めての活動「東京湾再生官民連携フォーラム」を、2013年から支援しています。



アマモの花枝の採集

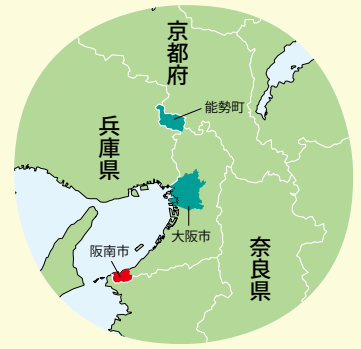
2018年 新たな「セブンの森」の展開へ

「セブンの森」は、地域の自然環境やニーズに合わせた植樹を行い、10年後、20年後に桜や紅葉の森にする、というようなランドデザインを作り、長期的な計画を立てて、地域に親しまれ、愛され、次世代に繋げる地域一体型の森づくりを目指しています。

2018年度からは、国有林・公有林に私有林も

加え、地域の住民やNPO、行政と連携し、気軽に参加して自然体験や地域交流ができる森づくりを行っていきます。

また、新たに大阪府阪南市でアマモを増やして海を再生する海の森づくり活動「阪南セブンの海の森(仮称)」づくりをスタートします。



「セブンの森」づくりの実績

2018年2月末日現在

名称	場所	開始年	面積
支笏湖セブンの森	北海道千歳市	2006年	14.8ha
千歳セブンの森	北海道千歳市幌加	2009年～2014年終了	1.2ha
えりも岬セブンの森	北海道幌泉郡えりも町	2013年	0.9ha
宮城セブンの森	宮城県大崎市鳴子温泉玉ノ木	2013年	300.0ha
仙台湾セブンの森	宮城県名取市下増田台	2014年	1.0ha
東松島セブンの森	宮城県東松島市浜市	2016年	1.0ha
相馬セブンの森	福島県相馬市磯部大洲	2016年	0.3ha
栃木セブンの森	栃木県矢板市長井	2013年	2.0ha
千葉セブンの森	千葉県富津市	2012年～2016年終了	2.5ha
高尾セブンの森	東京都八王子市市川町	2014年	26.5ha
福井セブンの森	福井県福井市小羽町「清水きららの森～おばやま自然公園～」	2017年	2.6ha
長野セブンの森I	長野県埴科郡坂城町	2012年～2016年終了	250.0ha
長野セブンの森II	長野県上水内郡信濃町「やすらぎの森」	2017年	15.9ha
三重セブンの森	三重県津市美里町	2014年	2.0ha
大阪セブンの森	大阪府豊能郡能勢町「歌垣山」	2013年	3.7ha
広島セブンの森	広島県東広島市八本松町	2013年	3.6ha
福岡セブンの森	福岡県福岡市早良区曲渕	2015年	1.8ha
佐賀セブンの森	佐賀県三養基郡基山町	2014年	3.6ha
宮崎セブンの森	宮崎県日南市北郷町	2013年	3.0ha
合計			636.4 ha



ロープを使って誘引伐倒に挑戦



「佐賀セブンの森」作業

「セブンの森」づくり 累計活動結果 (2006年～2017年)

活動回数	119回
加盟店と本部社員参加人数	9,155名
一般参加人数	2,563名

生物多様性保全活動

霧多布湿原保全活動

豊かな生態系を抱く霧多布湿原を次世代に引き継ぐために、「小さな力が集まって、大切な自然遺産を残していく」ナショナルトラスト運動を推進しています。

北海道浜中町の認定NPO法人霧多布湿原トラストとパートナーシップ協定を結び、2002年より霧多布湿原の民有地などを取得し保全しています。2018年より「霧多布セブンの森」も始動します。

取得面積 474.1ha (2018年2月末日現在)



霧多布湿原はラムサール条約登録湿地(撮影:ノーザンビレッジ 北村 康春)

自然学校

「人と自然、自然環境と地域社会の共存・共栄を自然から学ぶ」を基本理念に、くすぐんここのえちよう大分県玖珠郡九重町と東京都八王子市川町で自然学校を運営しています。

九重ふるさと自然学校

九重ふるさと自然学校は、2007年に開校し、ラムサール条約に登録された「くじゅう坊ガツル・タデ原湿原」をはじめとする草原環境の保全や草原性チョウの保全活動、さらにお米も生きものも育む自然共生型の田んぼづくりや地域に根付く伝統野菜の普及・啓発を通して、人と自然が共生する里地里山の

保護・保全活動に取り組んでいます。

「生きもの育む自然共生型田んぼづくり」は、国連生物多様性の10年日本委員会連携事業に認定されています。また、行政と連携し、各種の調査も実施しています。



左:バードウォッチング 右:おやとこ田植え

高尾の森自然学校

「高尾の森自然学校」は、東京都が初めて民間団体と拠点施設を構えて取り組む協働事業です。2015年4月に開校し、東京都八王子市川町の約26.5haの都所有の森をフィールドに、貴重な森林を守り、育むことにより低炭素社会の実現に寄与します。

また、東京都レッドリストに記載されている貴重な動植物の保護・保全活動を通して、生物多様性の重要性を体験し学ぶとともに、地域の自然、歴史、文化

などを次世代に継承していく人材を育てます。

たくさんの方に参加していただけるように週末には、森林ボランティア体験、野鳥観察会、草木の観察会、クラフトワークショップなどのプログラムを開催しています。都心に近い立地を生かし、保育園、小学校、中学校、高校、企業の自然体験活動や自然観察会の受け入れも行っています。



左:生きものしらべ 上:森林整備